

## ② 見通し

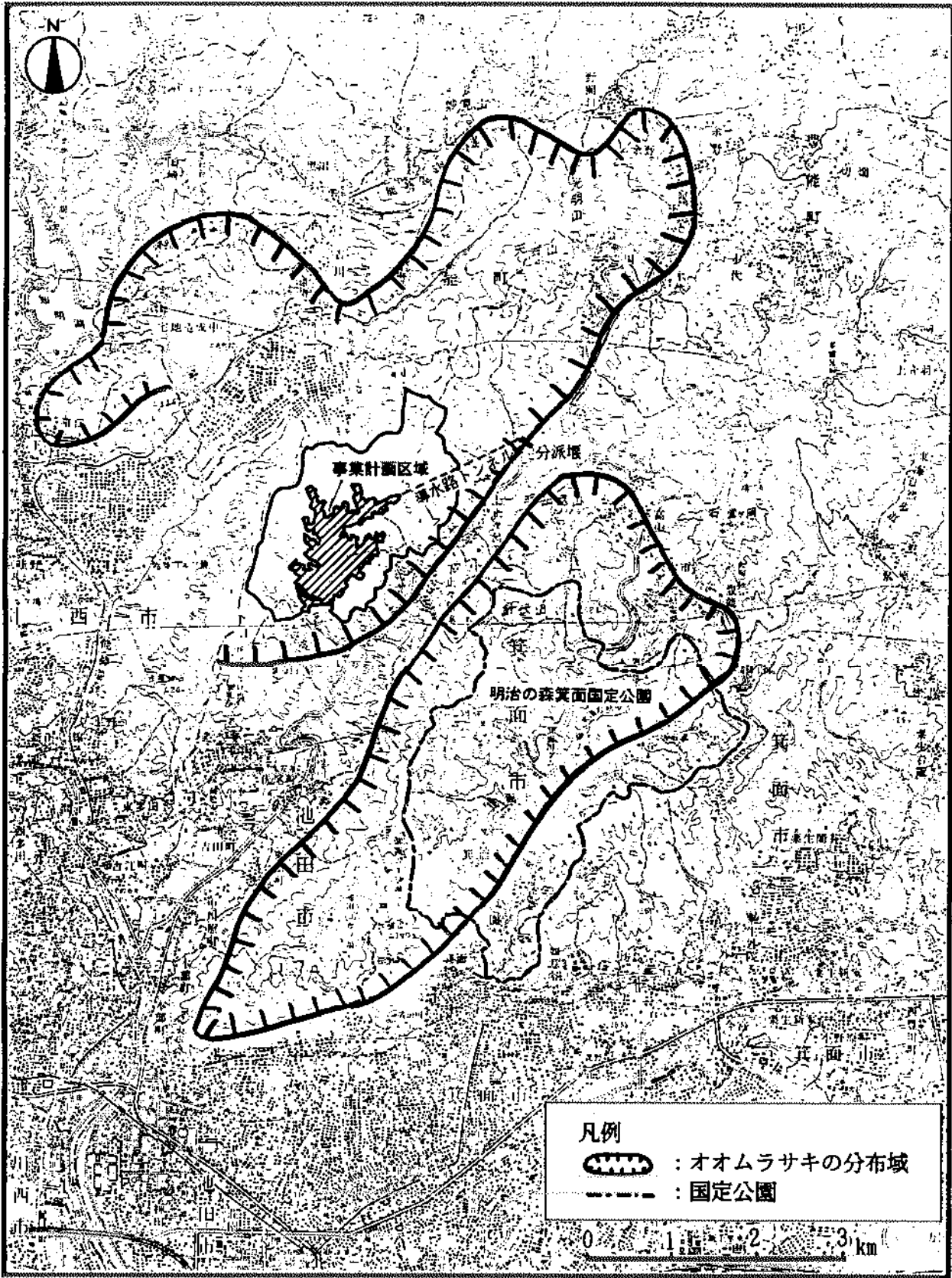
事業計画区域及びその周辺における現地調査では、注目すべき昆虫類等として、オオムラサキ、ミズムシ、ナガミズムシ、オオゴキブリ及びマヤサンオサムシを確認しました。

このうち、オオムラサキについては、事業計画区域とその周辺で成虫を多数確認し、越冬幼虫も確認しています。ダムの建設により、事業計画区域内の生息環境が消失しますが、本種は図2-3-17に示すとおり、事業計画区域を含む広い範囲で分布しているとされていること、事業計画区域外でも確認されていること、周辺には計画区域と類似した環境が多く残存していることから影響は小さいと考えられます。なお、事業計画区域内の緑化復元に当たっては、オオムラサキの食餌木となり、かつ、現存植生に多くみられるエノキやクヌギなどの植栽を行います。

ミズムシ及びナガミズムシについては、ダムの建設により事業計画区域内の生息環境が消失しますが、水位が常時ほぼ一定となる副ダムの周囲においては、現存植生等に配慮して緑化復元等を行います。

オオゴキブリ及びマヤサンオサムシについては、周辺地域にこれらの種の生息に適した環境が多くみられること、事業計画区域内においても現存植生に配慮した緑化復元に努めることから、これらの種への影響は小さいと考えられます。

なお、注目すべき昆虫類には該当しませんが、「第2回自然環境保全基礎調査」で指標昆虫に選定されているゲンジボタルとハルゼミについては、事業計画区域外の周辺地域においても生息を確認していることから、これらの種への影響は小さいと考えられます。



出典：「第2回自然環境保全基礎調査-大阪府動植物分布図-」（環境庁 昭和56年）及び  
「第2回自然環境保全基礎調査-兵庫県動植物分布図-」（環境庁 昭和56年）より

図 2-3-17 既存資料におけるオオムラサキの分布図

(12) 底生動物

① 現況

底生動物の現況把握のため、建設省では既存の文献・資料調査とともに平成3年度から4年度にかけて事業計画区域及びその周辺で現地調査を実施しました。現地調査は、河川ではコドラート法<sup>81)</sup>、ため池では手網等を用いた任意採集により生息種の確認を行っています。

底生動物について「大阪府下の川と魚」（大阪府、1993.3）によれば、平成4年に余野川（4地点、各2ヶ所）で実施された現地調査で44種の水生昆虫類を含む53種が確認され、優占種は、箕面市の上止々呂美ではウルマーシマトビケラ、下止々呂美ではヤマトビケラ属であったとされています。

現地調査では表2-3-27に示すとおり、8目145種の水生昆虫類を含む165種の底生動物を確認しました。

現地調査によって確認された底生動物等には注目すべき種は含まれていませんが、「第2回自然環境保全基礎調査—動植物分布調査（昆虫類）—」（環境庁、昭和56年）で指標昆虫に選定されているゲンジボタルの幼虫を底生動物として確認しています。なお、本種の生態的特徴及び確認位置は(1)の昆虫及びクモ類において示しています。

表 2-3-27 現地調査により確認された底生動物種数

分類群	河川	ため池	合計
渦虫綱	1	—	1
貧毛綱	8	9	10
蛭綱	1	2	3
腹足綱	1	1	2
甲殻綱	3	3	4
昆虫綱	111	56	145
カゲロウ目	29	7	31
トンボ目	7	16	18
カワゲラ目	11	1	11
カメムシ目	1	5	6
アマガサ目	4	—	4
トビケラ目	26	7	31
コチユ目	12	6	18
ハエ目	21	14	26
出現種数	125	71	165

② 見通し

事業計画区域及びその周辺における現地調査では、注目すべき種に該当する底生動物等は確認されませんでした。なお、事業の実施後は、水生植物等の生育・生息環境として副ダムの一部に設ける浅瀬部分を中心に新たな生息環境に適した底生動物が生息するようになると考えられます。

### (13) 景観

#### ① 現況

景観の現況把握のため、建設省では既存の文献・資料調査とともに平成4年度に事業計画区域周辺で現地調査を実施しました。現地調査は、多くの人々が利用するなど事業計画区域が人の目にふれる機会が多い地点であることを選定の基準として表2-3-28及び図2-3-18に示す2地点を主要な視点として設定し、この地点からの事業計画区域の視認状況を確認しました。

表 2-3-28 主要な視点

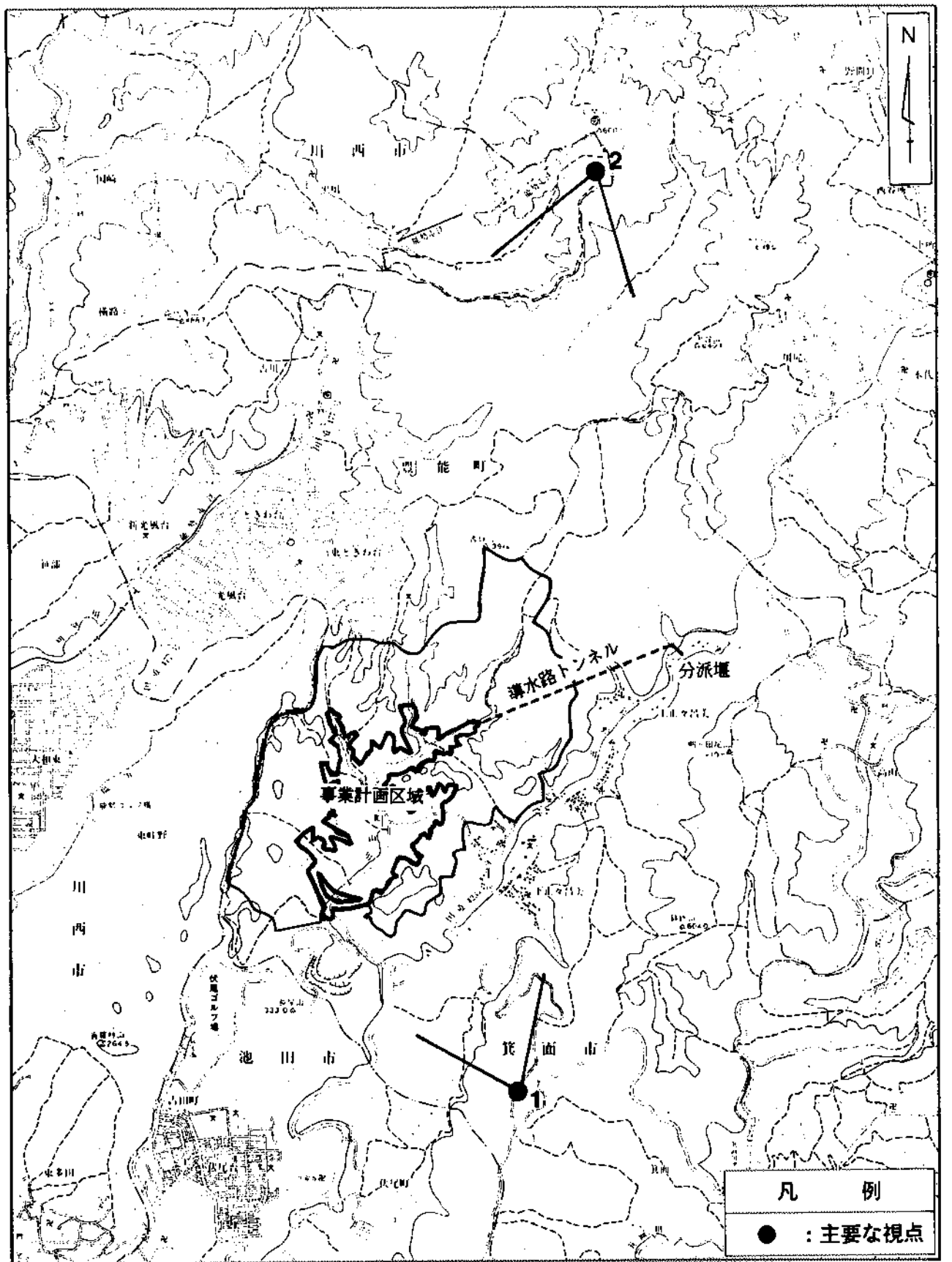
No.	視点名	視点としての条件	遠近	視認状況
1	鉢伏山南西中腹	林道上止々呂美線	遠景	ダム堤体及び貯水池のほぼ全体が見える
2	能勢町妙見山	妙見山駐車場	〃	ダム貯水池のほぼ全体が見える

「第3回自然環境保全基礎調査」(環境庁 平成元年)によれば、箕面市及びその周辺地域に係る自然景観資源としては、「非火山性孤峰」として妙見山(能勢町、豊能町)、明ヶ田尾山(箕面市、豊能町)及び石堂ヶ岡(豊能町、茨木市)、「溪谷」として箕面谷(箕面市)並びに「滝」として箕面滝(箕面市)が示されていますが、事業計画区域にはこれらの自然景観資源はありません。

事業計画区域周辺は山地で、川沿いには田畑や樹園地がみられます。また、クヌギの台木(台場クヌギ<sup>90)</sup>)などもみられ、薪炭林のおもかげを残す山村風景が広がっています。

事業計画区域とその周辺の景観を構成する要素のうち、自然的・半自然的要素についてみると、事業計画区域は標高約210m以下の山地斜面及び谷底平地で、周囲は400m以下の山地が取りまいています。植生については中腹から谷筋にかけてコナラークヌギ群落広がっており、尾根筋にはモチツツジ-アカマツ群集、谷底平地には草地群落や耕地等がみられます。周辺地域には北摂連山の600m級の山々がとりまいており、東側には余野川が流れています。

また、景観を構成する要素のうち人工的要素についてみると、事業計画区域内には炭焼き窯等を除いて人工的要素はほとんどありません。周辺地域では、北部は住宅地、東部は国道423号及び止々呂美地区の民家、南部には採石場、南部から西部にかけてはゴルフ場があるなど、開発が進んでいます。主要な視点として設定した2地点からの現況の眺望及び将来の予想図を写真2-3-1～写真2-3-2に示します。



等高線間隔 50m

0 500 1000 1500

図 2-3-18 主要な視点の位置図

## ② 見通し

事業の実施による主要な視点からの景観の変化の見通しについては以下のとおりです。

鉢伏山南西中腹の林道からの景観の現況と将来の予想図は写真2-3-1 に示すとおりであり、現状の山地景観にダム堤体及び貯水池が出現しますが、ダム貯水池の周辺区域については裸地のまま残らないよう現存植生の保全や緑化復元に努めるなど、周辺の景観と調和を保つことができるよう配慮します。

能勢町妙見山からの景観の現況と将来の予想図は写真2-3-2 に示すとおりであり、ダムの建設によって現状の起伏のある山地景観にダム貯水池が出現しますが、現存植生の保全や緑化復元に努めること、視認できるのはほとんど水面だけで特に人工的な印象を与えないことから、周辺の景観と調和した新たな景観が形成されると考えられます。



〔現 況〕



〔将 来〕

写真 2-3-1 鉢伏山南西中腹からの景観の現況と予想





〔現 状〕



〔将 来〕

写真 2-3-2 能勢町妙見山からの景観の現況と予想

(14) 文化財

① 現況

事業計画区域及びその周辺の文化財の分布状況について、既存の文献・資料等により調査を実施しました。

既存資料によると、事業計画区域周辺の文化財は表2-3-29及び図2-3-19のとおりであり、大阪府指定の有形文化財1件（石造宝篋印塔）をはじめ、城跡等が確認されています。また、大阪府が実施した事業計画区域及びその周辺の文化財分布調査結果によると、事業計画区域内では炭窯や銅試掘坑が確認されています（図2-3-19参照）。このほか、炭窯と関連して、台場クヌギ<sup>30)</sup>と呼ばれるクヌギの古木が多くみられます。

事業計画区域内には「文化財保護法」等の指定を受けた文化財、遺跡等はありません。

表 2-3-29 事業計画区域周辺の文化財等

種類	名称	所在地	備考
有形文化財 (建造物)	石造宝篋印塔	下止々呂美	大阪府指定有形文化財 (昭和53年8月4日指定)
仏像	薬師如来坐像(薬師堂) 大日如来坐像(积迦堂) 积迦如来坐像(积迦堂) 十一面観音立像(积迦堂)	下止々呂美 上止々呂美 " "	平安中期 平安中期 室町初期 平安後期
石像建造物	阿弥陀石仏(积迦堂) 六地藏仏(积迦堂)	上止々呂美 "	天正13年 室町末期
城跡	止々呂美城跡	下止々呂美	城跡推定地

「大阪府文化財総合目録」(大阪府教育委員会 昭和60年)  
「平成4年度版 市勢年鑑」(箕面市 平成4年) より

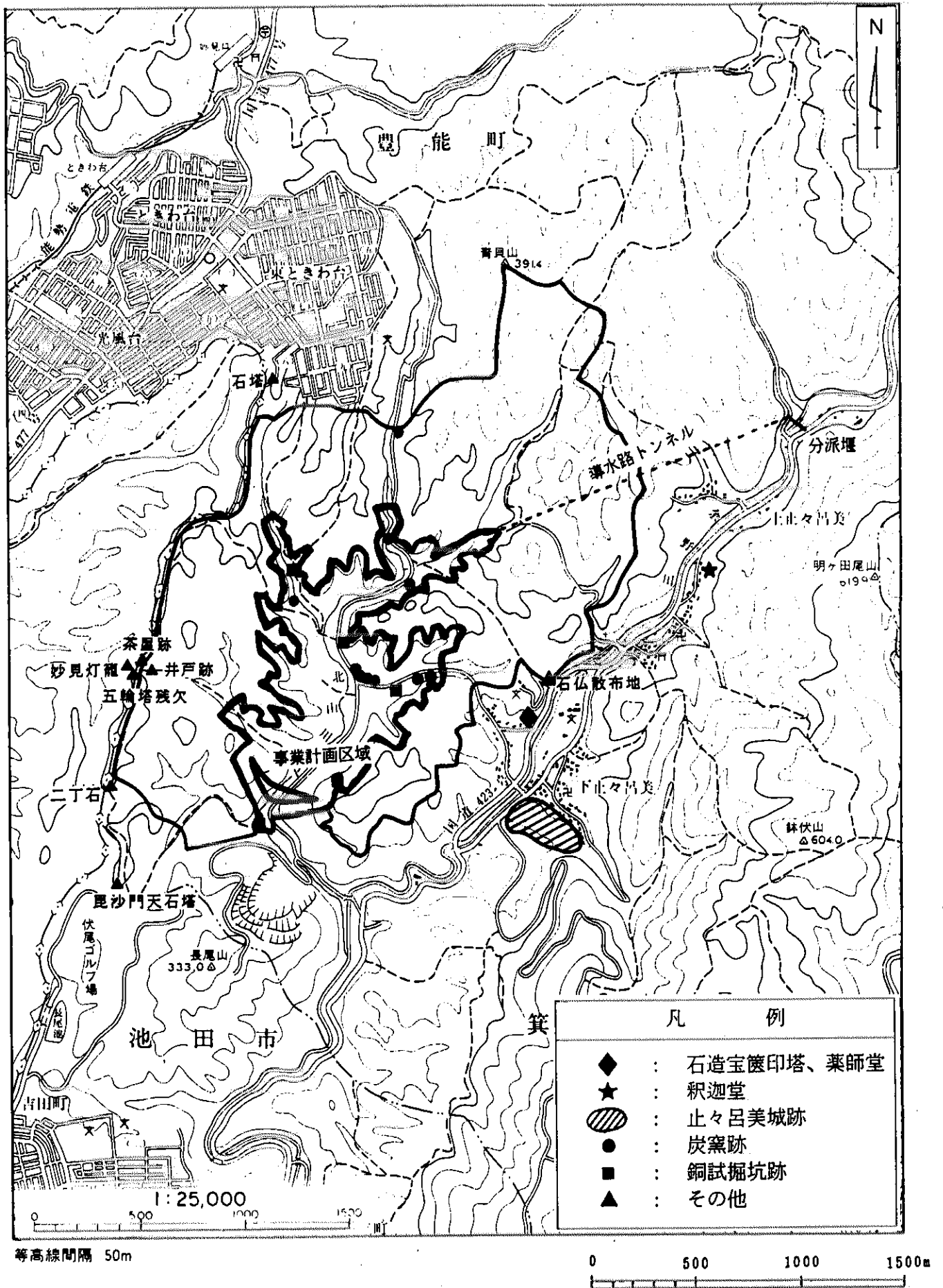


図 2-3-19 事業計画区域周辺の文化財等

#### 4. 工事の内容と工事中の環境の見通し

##### 1) 工事の内容

余野川ダム工事は、コンクリート打設や基礎掘削を主とする堤体工事、工事中用道路やコンクリート設備を主とする仮設備工事、付替道路を施工する補償工事、分派堰や導水路を施工する分派導水路施工等から構成されます。

工事は、まず、施工区域内に建設機械等が入れるように工事中用道路を造り、その後ダム工事を開始します。ダム工事は、年間を通して工事を行うためダムサイトにおいて転流工を施工して河流処理を行います。

次に地表面等の風化した土砂や岩等の掘削を行い、地盤の均一化を図るためにグラウチングを行い本体打設に入りますが、本体打設を行いつつ透水性の改良を目的としたグラウチングを行います。また、これに合わせて骨材設備、コンクリート設備の製作据付を行い、コンクリートの製造を行います。本体打設の進捗に合わせて放流設備を設置します。その他、低鞍部対策工、分派導水路施設工、副ダム及び付替道路も並行して施工します。

ダム工事が完了したあとはダムの機能を確認するために試験湛水を行い完成します。

##### 2) 工事中の環境の見通し

工事が環境に及ぼす影響については環境保全対策を検討するとともに、大気質、河川水質（降雨時の濁り）、騒音及び振動の影響についての予測を行っています。なお、事業計画区域周辺では土地区画整理事業も予定されていますが、施工場所や工程の調整を行うこと等により周辺地域への影響については配慮することとし、ここでは本事業の工事による影響のみについて記述しています。

##### (1) 大気汚染

建設機械や工事中用車両の稼働による周辺地域の大気質への影響について、工事計画等をもとに建設工事のピーク年次における大気汚染物質濃度の予測を行いました。予測の概要は表2-4-1のとおりです。

表 2-4-1 工事中の大気汚染に係る予測の概要

予測事項及び予測項目	一般環境大気質（二酸化窒素、一酸化炭素、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質の年平均値）
予測対象発生源	建設機械及び工事中用車両（ダンプトラック）
予測対象範囲	事業計画区域を中心とする東西約5.7km、南北約6.3kmの範囲
予測対象時期	工事期間のうち周辺地域への影響が最大となる時期（建設工事開始後5年目の1年間）
予測モデル	有風時：ブルーム式、弱風時：弱風パフ式、無風時：無風パフ式
気象条件	事業計画区域周辺における現地調査結果（平成4年3月～平成5年2月）をもとに設定